

学校行事が心の安定度に与える影響について

—高校3年生の文化祭への取り組みと心の安定について—

筑波大学附属駒場中・高等学校 養護教諭

吉川 範子

保健体育科

加藤勇之助

大阪体育大学

岡崎 勝博

学校行事が心の安定度に与える影響について

—高校3年生の文化祭への取り組みと心の安定について—

筑波大学附属駒場中・高等学校 養護教諭

吉川 範子

保健体育科

加藤勇之助

大阪体育大学

岡崎 勝博

要約

本研究は、学校行事が生徒の「心の安定度」に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。方法としては、高校3年生を対象に「心の安定度」アンケートを実施し、彼らの高校2年次から3年次にかけての「心の安定度」の変化を調べた。そして類型化を行い、各群の特徴と学校行事（文化祭）との関係について考察を行った。その結果、文化祭では約7割の生徒が心の安定度が上昇しているという結果が得られ、行事と心の安定度との関連が確認された。このことは本校で受験を直前に控えている高校3年生にとって、心の安定度との関連から文化祭の意義・教育的効果は大いにあるということが示唆された。

キーワード：心の安定度 文化祭 受験 学校行事

1 はじめに

「中高6年間における心の成長過程の分析第2報」⁽¹⁾で岡崎らは本校生徒の心の成長過程を分析し、5つの型に類型化した。このうち4つの型で高校3年生の時期に心の安定度が右肩上がり（注意：右肩上がり何を示しているのか不明）になり心が安定し、充実していくという結果が示されている。また、中高6年間のうちほとんどの生徒が、高校3年生の文化祭時期に心が安定するというデータも得られている。

しかし、本来は受験を目前に控えて心が不安定になるのが普通ではないだろうか。特に本校はほとんどの生徒が難関国立大学・私立大学に進学していく。彼らの心には受験に対する不安、合格しなければならないというプレッシャーが常に存在している。ところが過去の調査では逆に心が安定していくという結果が示されている。

そこで本研究では、「心の安定度」調査を行い、再

度この現象を確かめるとともに、クラス担任と協力しながら高校3年生になるとなぜ、心の安定度が高まる生徒が多くなっていくのかという点を考察したい。また合わせて、本校における行事の必要性についても考察していく。

なお次年度以降、継続研究としてアンケートを実施し、数値からも分析・考察していきたいと考えている。

2 研究方法

2.1 調査対象

55期生高校3年生（143人）

2.2 調査時期

2006年11月中旬

2.3 調査内容

生徒に心の安定度を自由にグラフで表してもらい、心が安定しているまたは安定していないと感じた出来事を記載するよう指示した。（図1）

About the influence that school events give stability of a heart

- About an action to a school festival of a twelfth grader and stability of a heart -

図1 心の安定度のグラフ

6年間の心の安定度について *どちらかに○をして下さい。(高校入学者 連絡進学者)
中学1年生から高校3年生までの6年間で、縦軸に「心の安定度 (やる気、充実感、成長、意気消沈、不安感、焦燥など)」を設定し、簡単な折れ線グラフで表し、出来事のメモも書いてください。

中1	中2	中3	高1	高2	高3



2.4 分析方法

心の安定度を示したグラフから、高校2年生から高校3年生までの期間に着目した。その軌跡が似たものを集め、類型化した。

3 結果

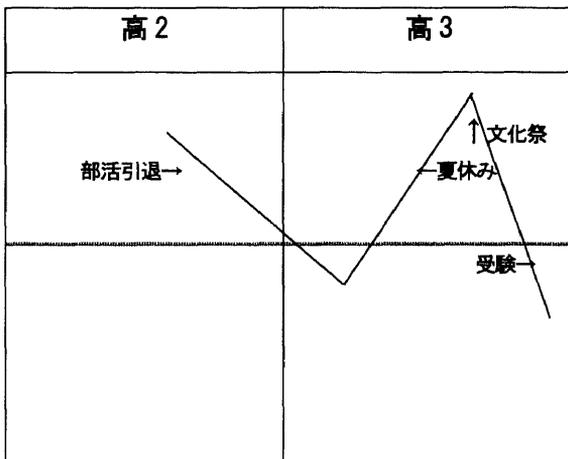
本研究では高校2年生から高校3年生にかけて心の安定度を分析したため、グラフは高校2年生から高校3年生に焦点をあてたものを掲載した。

アンケートの結果は表1の通りである。AからEの5つのタイプに類型化された。

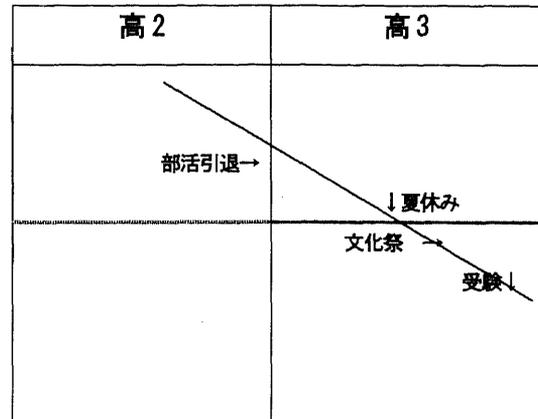
類型化 (表1)

	合計人数	割合
A	44人	30.8%
B	35人	24.5%
C	14人	9.8%
D	10人	7.0%
E	29人	20.3%
他	11人	7.1%

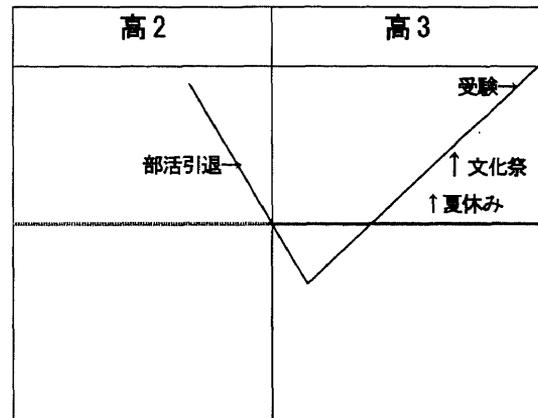
(A) 高校2年生の終わりから高校3年生の文化祭前まで心の安定度が低下する。しかし、文化祭に向けて心の安定度が上昇し、受験に向かい再度、心の安定度が低下するグループ。(30.8%)



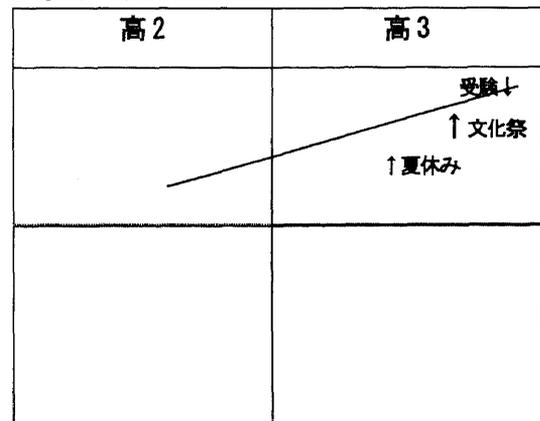
(B) 高校2年生の終わり頃から受験まで心の安定度が低下するグループ。(24.5%)



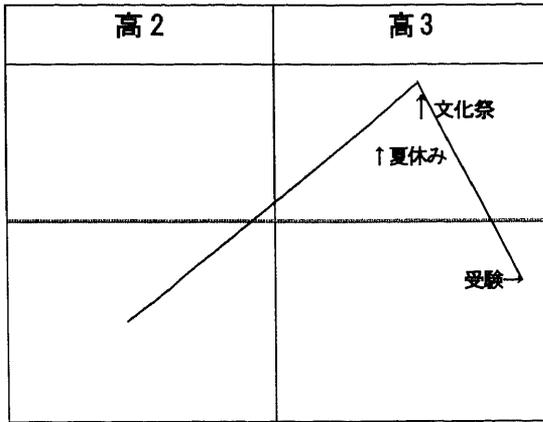
(C) 高校2年生の終わりから高校3年生の文化祭前まで心の安定度が低下する。しかし、文化祭に向けて心の安定度が上昇しさらに、受験に向けても右肩上がりのグループ。(9.8%)



(D) 高校2年生から受験まで右肩上がりのグループ。(7.0%)



(E) 高校2年生から高校3年生の文化祭まで右肩上がりだが、受験に向けて心の安定度が低下するグループ。
(20.3%)



さらにいくつかのグラフを合わせて、全体の傾向を見てみると、以下の6点が明らかになった。

- ①高校2年生から高校3年生にかけて心の安定度が低下する生徒はグループA・B・C合わせて65.1%と3人に2人の生徒が該当している。
- ②文化祭で心の安定度が上昇する生徒はグループA・C・D・E合わせて67.9%だった。
- ③文化祭があっても心の安定度が低下したままの生徒はグループBの24.5%だった。
- ④受験期に心の安定度が低下している生徒はグループA・B・E合わせて75.6%と4人に3人と非常に高い割合の生徒が該当している。
- ⑤受験期であっても心の安定度が低下しない生徒はグループC・D合わせて16.8%だった。
- ⑥心のターニングポイントの出来事に、部活動引退、夏休み、文化祭、受験という項目は、約8割の生徒により記載されていた。

4 考察

岡崎らは心の安定度を類型化し、①中学混乱期、②高校混乱期、③2段階混乱期、④右肩上がり・直線型、⑤高3落ち込み型と、5つの型を報告している。そして①から④の型で高校2年生から高校3年生にかけて心の安定度が右肩上がり(安定・充実する)となっている。特に高校3年生の文化祭後に「こころの安定度・充実度」が高くなっていると答える生徒が多くなっている。

しかし今回の調査では、「文化祭後に心が不安定にな

るとする生徒」が75.6%となり、多くの生徒が不安を抱えていることが明らかになった。

この結果と岡崎らの調査との違いは、調査の焦点の当て方の違いにあると考えられる。岡崎の調査では、中学から高校までの6年間の心の変化を捉えることが目的であったのに対して、本調査では高校3年の文化祭と受験の関係に注目したことによる違いではないかと考えられる。

つまり、今回の調査では心の変化を調べる期間を狭く限定したことにより、変化の精度が高められたために、文化祭後の生徒の受験に対する不安がより正確に捉えられたものと考えられる。

本論文で問題としたいのは、受験を間近に控えた生徒たちが、勉強時間を取られる文化祭に取り組むことが、かえって心の安定度や充実度をもたらすのかということである。この点について、調査結果とともに担任と考察を行った。

4.1 文化祭をめぐる心の変化

本校の文化祭は毎年11月の初旬に行われている。特に、高校3年生は文化祭の中心的な役割を担っており、その準備はその年の春から徐々に始まり、9月からは本格的な準備に入る。一般的な高校3年生は、その春前後から受験を意識し秋頃には追い込みの時期となり、その準備に余念がない。本校の高校3年生もまた、難関国公立大学・私立大学を目指し、高い進学率を維持している。生徒たちは、常に受験のことや周囲のプレッシャーを意識下にある。結果のグラフから見てもわかるとおり、A・B・Cのグループは、高校2年生の終わり頃から高校3年生にかけて65.1%という3人に2人の生徒が心の安定度の低下がみられる。これは、来年の受験に向けての不安やプレッシャー、進路、成績や自分の能力について真剣に向き合い考えているからであるといえるのではないだろうか。さらに、文化祭が過ぎ本格的な受験準備の追い込みにかかるると心の安定度が低下する生徒はA・B・Eのグループで75.6%である。4人に3人の非常に高い割合の生徒が該当している。これは、文化祭にかけていた力を受験にシフトする時期であり、いよいよ受験本番までほぼ40日をきり、また、センター試験が目前に迫っているという焦りや不安があるのだろう。多くの受験生は、受験を目前にこのような心理状態になる傾向が多く、本校の生徒たちもその経過をたどっているといえる。

4. 2 高校3年生にとっての文化祭とは

ここでは本校の生徒が、なぜ受験直前の時期にある文化祭に67.9%もの生徒の心の安定度が上昇しているのか考えていきたい。本校の三大学校行事は、音楽祭・体育祭・文化祭である。特に本校は行事を中心としてクラスや仲間との交わりから一体感や連帯感、結束力などを強め人間関係を形成していく。行事は、成長発達段階にある人格形成にも重要な意味をもち、その影響力は大きいといえる。特に高校3年生は文化祭の中心的な役割を担っており、一般的には難関大学の進学率をもつ学校で、秋の文化祭時期に受験を控えた高校3年生が、文化祭の中心となり活動しているということは想像し難いことである。しかしながら本校の高校3年生はむしろ、受験の事は意識下にありながらも、文化祭を楽しみながら取り組んでいる姿勢がみられている。

井上は、「附属駒場では、毎年の大学進学実績はあまり問題にならない。授業・行事などでどれだけ、活躍できるか、後輩たちに対する影響力をどれだけ持ちえたか、各学年の雰囲気やリーダーシップやチームワーク等の方が、問題視される」²⁾と報告している。

文化祭では友人たちとの様々な交わりや、摩擦、葛藤もある。仲間との信頼関係の構築、一体感や達成感、満足感や新たな友人間の交流など文化祭を通じ、周囲との関係から自己開示することを求められる。そこから、客観的に自己分析する機会を得、文化祭を通して自分を捉えなおし、みつめるのだろうと考えられる。その自己変革は、後の人格形成にも非常に大きな意味を持つものだと考える。

また、受験の追い込み時期といわれている秋の2ヶ月間高校3年生が、文化祭準備に費やし、文化祭を完成に導くことができるということは、何年間も継続しなければならぬクラブ活動とは違い、文化祭が短期集中型であるということも、本校の生徒に合っていると思われる。また、本校生徒の作業能力の高さ、物事に取り組む集中力の高さ、さらに切り替えの早さも関係しているのであろう。

これらのことより、文化祭時期に心の安定度が上昇するという事は、友人たちとの深い交わりやその関係から新たな自己の発見があるためと考える。

4. 3 文化祭の教育的意義

高校3年生にとって文化祭は、心が安定するという事においても非常に大切であるということがいえる。また、文化祭終了後には気持ちを切り替え、受験に向

かうという高校3年生全員の共通認識がある。文化祭では、受験の不安を一時すべて忘れ完全燃焼できることは、彼らにとって高校生活のけじめであり区切りという意識が強いのである。

結果⑥の心の安定度のアンケートに記載されたターニングポイントは、文化祭と受験について8割近くの生徒が記載していた。ここからわかることは、文化祭・受験は、生徒にとって非常に強く意識されている事柄だとわかる。ほぼ7割ちかくの生徒が文化祭で心の安定度が上昇するという事は、前出の井上も報告しているとおり、受験で得られるものよりも、文化祭で得られるものの方が重要で貴重であるという価値観を抱き、それを生徒は実感しているといえる。

以上のことから本校にとって文化祭は欠かせない行事の一つといえる。思春期の終わりにかかる高校3年生にとっては、文化祭をきっかけに自己を再構築する機会となり、人格形成にも非常に重要な位置を占める。このことは、受験を控えた高校3年生が文化祭に向けて7割ちかくの生徒が心の安定度を上昇させていることから理解される。

もし、本校が勉学を優先し、文化祭も無関心・無関係な受験一色の学校であったならば、生徒の心の安定度は低下する一方であることが今回のアンケート結果から容易に推測される。文化祭があることにより受験一色にならず、ここに価値をおいて生徒たちのモチベーションがあがるということは、文化祭の教育的効果とその有効性があるといえるのではないかと考える。

5 まとめ

①高校2年次から高校3年次にかけての心の安定度の調査では、心の安定度のパターンは大きく5つに類型化できた。

②文化祭終了後、受験にシフトすると心の安定度が低下する生徒は約8割弱いる。しかし、約7割の生徒は、学校行事により(特に文化祭)、心が安定している時期がある。やはり、高校3年生の文化祭という最大で最後の行事が彼らに好影響を与えていると考えられた。

③およそ2割の生徒は、受験というプレッシャー、または、高校入学後、一定の時期から心が不安定のまま受験に向かってしまう。

④心の安定度からみた文化祭の教育的効果とその有効性においては生徒自身が実感していることである。

【引用文献】

1. 岡崎勝博ほか『中高6年間における「心の成長過程」の分析 第2報』(2002)「筑波大学附属駒場論集」P151
2. 井上正允『小学生・中学生・高校生の作文分析から「自分くずし・自分づくり」を考える—中高一貫カリキュラム構成の基礎的研究—』(2001)筑波大学附属駒場論集」P189

【参考文献】

1. 岡崎勝博ほか『中高6年間における「心の成長過程」の分析』(2001)「筑波大学附属駒場論集」P127-130
2. 岡崎勝博ほか『中高6年間における「心の成長過程」の分析 第2報』(2002)「筑波大学附属駒場論集」P151-158
3. 井上正允『小学生・中学生・高校生の作文分析から「自分くずし・自分づくり」を考える—中高一貫カリキュラム構成の基礎的研究—』(2001)筑波大学附属駒場論集」P181-191